

“60秒でサッと読めます” もしドラとドラッカーの「マネジメント」



(会計の工夫 52)

平成 25 年 3 月 13 日 (水)

公立高校野球部の女子マネジャーみなみが、ふとしたことでドラッカーの「マネジメント」に出会う。その本には、組織とは何か、それを円滑に運営するためにはどうすればいいか、ということが書かれていた。ドラッカーを読んで、それまで弱かった野球部を強くするのに役立てることができないか、というベストセラーである。(2010年7月ダイヤモンド社発行 もし高校野球の女子マネジャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら 岩崎夏海著)

経営学の父とも呼ばれる 20 世紀最高の知性の一人ピーター・F・ドラッカーの代表作「マネジメント エッセンシャル版」と「高校野球の女子マネジャー」の活動が、組織におけるマネジメントの必要性と成果を通じて感動的に記されている。

この本は、ドラッカーの集大成ともいべき「マネジメント — 課題・責任・実践」からもっとも重要な部分を抜粋したものである。ドラッカーは、1950年代、60年代という前回の**世界の転換期**において、20世紀のアメリカ、ヨーロッパ、日本の経済、社会、企業、マネジメントが形成され、また今回**再び転換期にある日本の経営や経済を再考する必要がある**と言う。このような転換期にあって重要なことは、**変わらざるもの、すなわち基本と原則を確認すること**だとドラッカーは言う。

マネジメントの**基本とすべきもの、原則とすべきもの**が本の中に明確に記されているかというそれはそんなに単純なものではない。しかし、これらの基本と原則は、それぞれの企業の置かれた国、文化、状況に応じて適用しなければならないという。カナダの政府機関再編での経験は、日本の自治体の再編、国との関係の再構築では応用できず、アメリカのグローバル企業の組織構造は、日本のベンチャー企業の組織の参考にはならなかったという。

そしてドラッカーは、**第三の**もう一つのきわめて重要な「**しかし**」について説明する。それはいかに余儀なく見えようとも、いかに風潮となっていようとも、**基本と原則に反するものは、例外なく時を経ず破綻する**という。すなわち、基本と原則は、状況に応じて適用すべきものではあっても、**断じて破棄してはならないもの**だという。

ドラッカーの言うように、「マネジメント」は、世界で最初、かつ今日にいたるものの唯一のマネジメントについての総合書である。そしてドラッカーの**望んだように**読まれているという。第一線の経営者が問題に直面したときの参考書であり、第一線の専門家、科学者が組織とマネジメントを知る上での教科書としてであり、ばりばりのマネジャー、若手の社員、新入社員、学生の入門書としてである。マネジメントに直接の関わりを持たない大勢の人たちが「マネジメント」を読んでくれているという。その意味で、**野球部の女子マネジャーがマネジメントを読んで成果をあげたのも、ドラッカーが予見したとおりのこと**である。